

質問項目：

【商店街振興】

商店街の役割と存続について
地元商店街利用による商店街振興について

【地域医療】

小児初期救急医療の充実について
港区がん対策推進アクションプランについて

【港区ワールドフェスティバルについて】

事業の意義及び効果について
文化プログラムとしての位置づけについて

【教育】

継続性のある一貫教育について
中学校の語学教育方針について

* 一般質問とは、区議会定例会の場において、議員が区政に関して広く説明や報告を求めたり、将来に対する考え方等を区長と教育長（教育関連の場合）に質問することです。

【商店街振興】

Q. 商店街振興策というものは、存続するために活性化に取り組む、活性化させるためにまずは存続をする、商店街支援というものはこの2点の複雑なバランスの上で成り立っている。港区が考える商店街の役割、商店街を存続する重要性とは？

区長： 地域とともに歩み、個性豊かな商店同士が協力しながら商業活動を行う商店街は、多様な消費者ニーズにきめ細かく応え、区民の消費生活を支えている。雇用の創出や、季節ごとのイベント開催、清掃活動、防犯活動などの取組を通じて、地域の安心や活性化に大きく貢献している。商店街が将来にわたり存続することは、区民の日常の生活を支え、地域経済の発展と地域コミュニティの活性化のために欠くことのできない、大変重要なことと考えている。

Q. 地元における購買を推奨する姿勢を区が見せることは、地元を大切にする意識を生むだけでなく、個々の商店を支え、商店街を維持に繋がる。地元の方々に地元商店街を利用してもらうという原点にもう一度着目した商店街振興についてどう考えるか？

区長： 区民の消費生活実態調査を行い、区民の生活スタイルと消費の多様化が一層進んでいることなどが明らかになってきた。来年度は更に商店街の実態調査を行い、今後これらの調査結果を踏まえ、区民の消費生活を地域コミュニティを支える商店街との結びつきを更に強め、地元での購買推奨を含め、効果的な商店街振興施策を検討する。

【地域医療】

Q. 初期救急から二次救急に近い機能を持たせることを優先し、将来を見据えた港区内の小児医療体制の基盤を今まで以上に確立していくことを視野に入れるべき。みなと子ども救急診療室の診療実績と、今後の小児初期救急医療の充実に向けた取り組みは？

区長： 今後の小児初期救急医療の充実に向けて、入院が必要な中等症までの患者の受け入れや、重症患者の二次救急医療期間への円滑な運送体制について検討する。診療日の拡充についても、区民ニーズを踏まえた上で早期に実現できるよう取り組む。

Q. 港区がん対策アクションプラン策定の背景と、がん拠点病院との連携について見解は。また、区が提供するがん治療に関する情報提供に治験の情報を加えることが、区民のがん教育や医療の質の向上に繋がると考えるが、がん患者への情報提供の質と量についてどのように行うのか？

区長： 予防や早期発見、地域がん医療の充実、患者家族の療養支援を含む総合的な対策を進めるために「港区がん対策推進アクションプラン」を策定することとした。区内5ヶ所のがん拠点病院との連携については、その協力を得て地域医療の充実に努めるとともに、区民が必要とするがんに関する正確な情報を一元的に集約し提供する。特に治療については、標準的に行われている治療だけではなく、治験についても情報提供を行うことで、区民が適切にがんの治療を選択できるよう支援する。

【港区ワールドフェスティバル】

Q. 成熟した国際都市を目指す港区にとって、このワールドフェスティバルの意義と効果は？

区長： イベントを通じて、参加した多くの方々に国際性豊かな港区の魅力を実感していただくとともに、区と各国大使館等との連携関係は、より一層強固なものとなっている。こうした取組の成果は確実に、成熟した国際都市・港区の実現に向けた礎になる。

Q. 港区ワールドフェスティバルは、地方自治体が実施できる文化プログラム事業のひとつとして既に成立しているのでは？

区長： 文化プログラムは、オリンピック憲章で開催国に実施が義務付けられている取組であり、区は来年度から区内の文化芸術資源を活用した港区ならではの内容で展開する。国際性豊かな地域特性を生かした港区ワールドフェスティバルを文化プログラムに位置付け、より一層の区民の参加や多様な文化の交流を推進するなど、事業内容を更に充実させる。

【教育について】

Q. 日本語学級のある筈小学校を含む高陵アカデミー、そして国際学級のある東町小学校を含む六本木アカデミーは、一貫教育の枠組みは存在するものの、中学校では今までの特色を活かすための指導が継続して行われていないが？

区長： 麻布地区の各アカデミーにおいて、その地域の特色を活かした一貫教育の研究を更に進めていく。その成果を検証し、麻布地区はもちろんのこと、区立小・中学校全体を通して一貫した国際化に対応できる教育環境の整備に努める。

Q. 語学能力の高い児童が公立中学校に進学するようになる。港区ならではの課題といえる、公立中学校での語学指導における教育方針は？

区長： 区立中学校では生徒一人ひとりの学力を確実に伸ばすため、授業において習熟度に応じた指導を展開している。語学に関しても英語の能力が高い生徒には、能力に見合った少人数指導の環境で学習するなど、意欲が高まる工夫もしている。日本語の理解が不十分な生徒には、日本語適応指導員による個別指導に加え、教員が教科書等の感じに振り仮名を振るなどの支援もある。今後も生徒の語学能力に応じた指導の工夫、支援に努めるとともに、「話す・聞く・書く・読む」の語学における4つの技能の向上を図り、世界で活躍する真の国際人を育成するため、港区らしい質の高い語学教育を推進する。